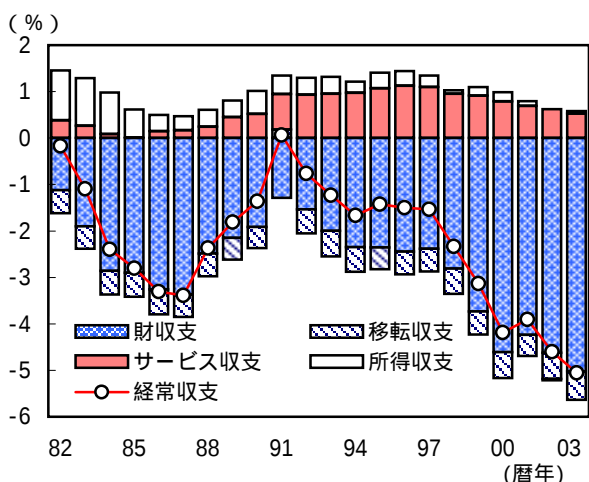


米国の経常赤字と米国への資金流入の現状

- ・米国経常収支の対GDP比は(図1)、財収支の赤字幅が再び拡大したために、2000年には4%台の赤字に達し、双子の赤字が問題となった80年代の水準を上回った。なお、2002年には、一貫して黒字であった所得収支が赤字となった。
- ・米国への資金流入をストックの面から捉えるために、米国の海外に対する負債残高(グロス)の推移をみると(図2)、海外の公的部門に対する負債は増加しているものの、負債全体に占める割合は80年代よりも低下しており、負債の大部分は海外の民間部門に対するものである。
- ・米国への資金流入をフローの面からみると(図3)、海外の民間部門からの資金流入は、米国債や株式によるものが多い。海外の公的部門からの資金流入は、2002年後半から増加傾向にあるが、海外の民間部門に比較すると規模は小さい。
- ・以上のように米国への資金流入をみると、依然として海外の民間部門の影響が、海外の公的部門よりも大きいことが分かる。一方で、このところは、海外の公的部門の影響が増していることも確認出来る。

図1 経常収支の推移(対GDP比)

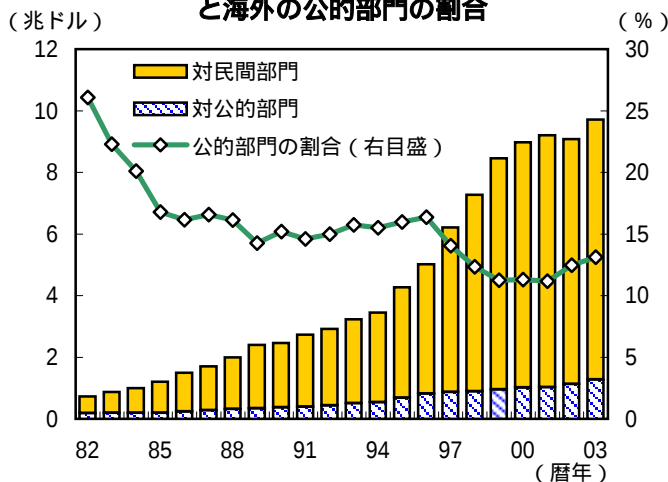


(備考) 1. 米商務省“Survey of Current Business”により作成。

2. 2003年各項目の値 = $\frac{\text{同年1～9月までの合計}}{\text{同年第1～第3四半期のGDPの平均} \times \frac{3}{4}}$

ただし、GDPは年率。

図2 米国の海外に対する負債残高(グロス)と海外の公的部門の割合

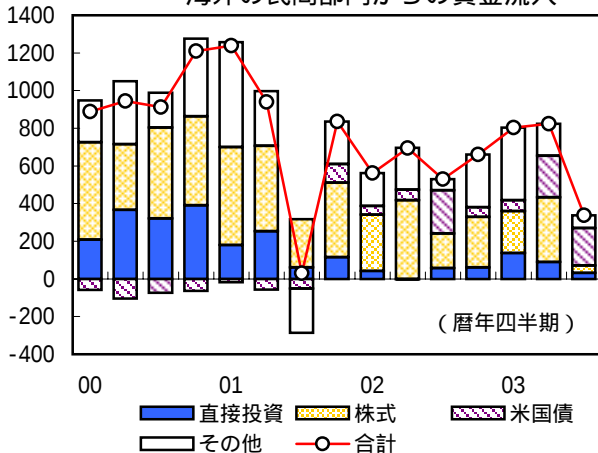


(備考) 1. 米商務省“Survey of Current Business”により作成。

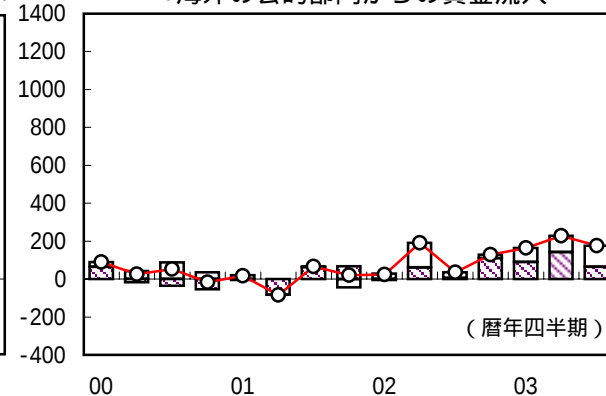
2. 対民間部門とは、海外の民間部門に対する米国の負債額。対公的部門とは、海外の公的部門に対する米国の負債額。
3. 対外負債における直接投資額は市場価格評価。
4. 2003年負債額は、2002年の負債額に2003年第3四半期までの流入額を加えたもの。

図3 海外からの部門別資金流入(グロス)

(10億ドル、年率) 海外の民間部門からの資金流入



(10億ドル、年率) 海外の公的部門からの資金流入



- (備考) 1. 米商務省“Survey of Current Business”により作成。
2. 「その他」は、「合計」から各項目を引いたもの。

[調査部(経済調査担当) 鷲之上 大輔]